

世界を変える小さな家ー Home-Electronics Cafe。

無名でたったひとつの“家”が、「存在感」を持つことが出来るのか。



〈高齢者起業プログラム〉

ホームエレクトロニクスカフェのスタートアップとは？

HECP はドアノブにプレートを吊るすだけで、自宅開放による高齢者起業のスタートアップが始まります。オープンで参加フリーのプログラムです。日本にはすでに「数千万」のカフェの設備があり、「数千万」の家庭料理の料理人が存在します。誰もが一人でも経営できる無理のないオペレーションです。また、家族や友人、そして近隣住民によるコンソーシアムやワークシェアリングによる導入も可能です。この小さな仕事場は自宅を利用してることで新たなコストは一切かかりず、家電製品を活用することにより、操作も簡単・安全で高齢者をはじめ、障がい者やお子様でも十分対応できるお茶会や試食会スタイルのキャッシュ・フォー・ワークの活動です。普段自分一人だけいるとき家はプライベートな空間ですが、お客様がくれば、その空間はパブリックになります。自らの部屋をオープンにしてシェアすることで世界中に宿泊先を提供したり、手料理を地域の人とシェアするといったさまざまなシェアリングサービスは、個人個人がいろんなリソースをパブリック化し、シェアすることで、地域が活性化し、みんなにとって

の公共圏や市場が生まれることになります。ホームエレクトロニクスカフェは「家」です。ただし、それは、「自宅公共化」や「シェアリングコミュニティ」と呼ばれる「共有可能性」を見据えた次世代の「家」の在り方を形象しています。ホームエレクトロニクス カフェの特色は会員制や一見御断りではなく、“オープンソース”であるということがいえます。誰しもが自由に参加することが出来、プロジェクトを発展させていくことが可能です。今までの参加者もアーチストやアクティビストだけではなく、学者や文化人やジャーナリズムを専門としようとしている同世代の人たちが参加し、全く一緒に行動しています。スタートアップの存在意義は、“今までに無いイノベーションを通じ、人々の生活と世の中を変える事”です。ホームエレクトロニクス・カフェという、日本のオルタナティブカルチャーに共感するという数億人の「ジャパン支持者」を世界中に作りだし、今後の日本は、軍事力や経済力は衰えても、芸術や文化には創造的であり続ける可能性を導き出します。